

まずは多忙な選挙活動中にも関わらず、ご回答を頂いた5つの党に対して感謝申し上げます。総論では、5党全てが以下8つの問題について「改善すべき」とお考えのようですが、その度合いや具体的施策については、各党で違ったご意見をお持ちのようです。

ここに挙げました問題は全て、「子どもたち」に直接影響を及ぼします。人類最高の宝物である「子どもの笑顔」を増やすために、各党回答を比較し投票のご参考にしていただければ幸甚です。

保育園の待機児童や学童保育問題については5党ともに、現状制度では不十分だと考えています。二元行政や財源という課題も、「やろうと思えば解決できる」はずですね。

子どもの貧困問題については5党ともに、教育費向け公的支出を増やすべきと考えています。低所得者向け優先vs所得に関係なく補助、というバランス感覚が問われそうですね。

公立学校問題については5党ともに、現状施策は改善すべきだと考えています。多忙を極める教職員と少なすぎる教育予算という制約の中、小手先ではない抜本的な改革が必要でしょうね。

大人が与える子どもへの悪影響問題については5党ともに、アダルト本や性犯罪などは大きな社会問題であると認識しています。その施策や犯罪者への刑については各党で意見が異なるようです。

児童虐待やDV問題については5党ともに、現状施策では不十分だと考えています。虐待数が増えている中、相談所数を増やすなどの手段のみならず、社会構造の抜本的な改革が必要なのでしょうね。

男性の育児参加、育休切り、及びWLB問題については5党中4党が、改善すべき問題だと考えています。パパクォーター制の導入など、抽象論ではなく具体論をより多く取り入れて欲しいものですね。

自殺問題については5党ともに、問題ありと認識しています。小手先の手段や施策では大きな改善は期待できず、やはり社会や仕事のあり方を抜本的に変えていく仕組みが必要なのでしょうかね。

父子家庭問題については5党ともに、現状では不十分で手を打つべき問題だと考えています。親であることは男女ともに同じでありそこに差をつけるべきではないというご意見が多いようです。

ファザーリング・ジャパン 理事 川島 高之